



vol.83

2021年
11月26日
発行

日本山岳会

「高尾の森」



通信

— 小下沢風景林の森づくり活動 —

会員数：165名
(2021.10月末現在)

新型コロナウイルス、植樹候補地不足等で
しばらく植樹祭が見送られてきましたが、
来年より都市林や板当エリアに植樹地を設け取り組んでいきます。

ザリクボ左岸の紅葉 (撮影 2021.11.07)



創立
20周年



都市林植栽地



板当植樹候補地 (滝ノ沢林道から)

ヒラタカゲロウ

先日小下沢溪流に下りたら石の間で幼虫が見られ
古生代より命を繋いでいる「カゲロウ」に
勇気をいただきました。
(横川信由)



ヒラタカゲロウ



<http://JACtakao.net>

これからの 植樹祭計画

「北高尾は杉、檜が8割の人工林なのでいろいろ問題がある。花粉の問題、生物多様性の問題など。杉、檜を間伐して落葉広葉樹を植えよう。なら、かつら、山桜、楓などを植えて、50年かけて今8割ある針葉樹の森を半々にして行こうというのが大きな目標」

2014年1月NHKラジオの「明日への言葉」に出演された故河西代表の発言である。

広葉樹を植える「植樹祭」は、高尾の森づくりの会にとって、最も大きな行事でした。しかし、この数年間は、植栽地の不足や新型コロナウイルスによって休止に追い込まれています。今後は以下の計画によって、再度取り組んでいくことにします。

1. 年度別計画

○2022年4月

都有林にて：会員による実施

○2023年4月

都有林にて：法人企業参加で実施予定

○2024年4月

板当202林班にて：法人企業に加え一般募集参加で実施予定

○2025年以降も板当202林班（約18ha）にて継続して実施したい。

2. 2022年度の植樹祭

都有林内で会員自らの手で植樹を行います。まだ一度も植樹をしたことがない方が多くいますので楽しみにしてください。なお植樹予定地は会員が手分けして準備に取り組んでいきます。



京王

功刀正仁

親子森林体験スクール報告

京王親子森林体験スクール第20期が10月24日に開催された。

昨年は新型コロナ禍の影響で中止、また例年春の開催が秋となった。好天のもと9家族大人13人、子供10人が元気な姿で木下沢梅林前に集合。やや緊張気味の皆様にまずは名札に名前を書き、主催者挨拶、注意事項、準備体操で体をならすところになると子供たちの表情も柔らかくなったかな。初めてのヘルメット着用に対し子供たちは嬉しそうな反面親御さんからは危険なところがあるのですかの質問、心配はないのですが安全第一を説明して納得！3班に分かれ会員のサポートのもと小下沢林道沿いの自然観察をしながらベース小屋に向かいました。

自然観察の資料として沢沿いの「秋の野の花を調べよう」写真シートを配布、源原さんが2週間前に事前調査して選びました。今回は単に草花の名前を覚えるのでなく五感で体験できる種類を12種類厳選、触ると粘着性やざらつき、葉っぱの匂い、触ると飛び出るタネ、花の表裏で色が違うなどです。さらに岩石や植生、地形など班リーダーやサポート会員の説明も詳しく質疑応答しながらの観察であった。また2019年の19号台風の影響で沢筋、林道が大きな被害を受けた場所での説明には皆さん驚きの様子、ある親御さんからはテレビでの被害状況を生で見ると被害のすごさが実感できたとのこと。

ベース到着、お腹のすいた家族はおやつタイム、広場の木の椅子に座り松川さん自作のバードコールを試しながら「高尾の森」の話を聞き、次には高尾の森にはどんな動物がいますかの質問に答えた後で「高尾の森の生き物たち」ビデオ鑑賞、その数の多ささらにクマには驚きの様子、如何に高尾の森が多く動物が生育する環境にあるかを理解できたのではないだろうか、ある男の子はクマがどこかで僕らを見ているのかなとつぶやいていた。

高尾の森の生物多様性をビデオ鑑賞や自然鑑賞から少しでも理解してもらえれば嬉しい限りです。お昼休み、お弁当を食べた後は横川コレクションにびっくり。家族それぞれ楽しい時間を過ごした。午後は4の沢での地拵え体験、初めてのノコギリ鎌で作業開始、慣れない作業にもかかわらず親子ともに生き生きと取り組む姿に驚いてしまう。あっという間に時間が来て無事終了。次回はここに4種類の苗木を植えることを楽しみにして帰途に就く、事故・けがもなく無事終了出来て何よりでした。主催者の京王電鉄さん、サポートいただいた皆様お疲れ様、次回11月7日宜しくお祈いします。

自然は学びの宝庫・生き物は人をつなぐ命の教育でもある（中島弘毅、松本大学 徒然なるままに～田んぼの楽校実践を通じて～）より

8・9月活動日記

● 8月と9月の定例作業は緊急事態宣言が発出また延期されたため、やむなく中止とした。チェーンソー研修会も併せて延期とした。

● 上柚木公園の整備は予定通り3回目、4回目を実施、蒸し暑い中ツルとの戦いに奮闘した。

● 機械班が今後の作業を行う前に218林班の標準地調査を行い、都府林作業は三の沢作業道の整備に取り組んだ。

● また京王親子森林体験スクールを控え下準備にも取り組んだ。



218 林班標準地調査



上柚木公園作業ツルとの闘い



都府林作業道整備



ガソリン運搬中



宮本さんと箸塗装機械
(20周年記念品)

もくじ

これからの植樹祭計画	02
京王親子森林体験スクール報告	02
8・9月活動日記	03
10月活動日記	04
刈払機講習会レポート	07
自由投稿	08
幹事会報告	11
石垣の素敵な戸倉村へ	11
新入会員紹介	12
事務局からのお知らせ	12



京王親子森林体験スクール植栽地準備

10月活動日記

- 10月定例作業を久しぶりに実施した。小下沢エリアでは作業道整備や下草刈り、また都有林は来年の植樹祭に向け間伐や棚づくり等で着々と準備を進めた。
- 今年2回目の一丁平作業が行われ、京王さんからも3名参加し、下草刈りの他痛んだ柵の交換にも取り組んだ。



10月定例作業に続々と……！



A 班



B 班



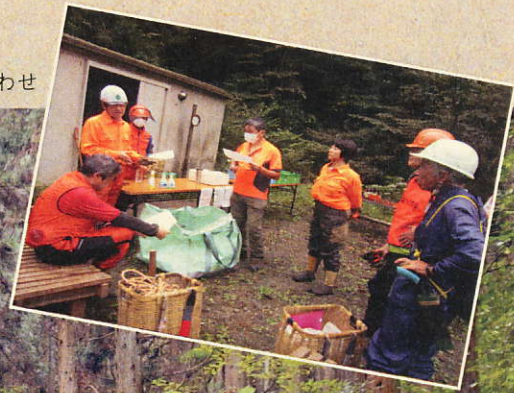
C 班



D 班



作業うちあわせ



218 林班へ



都有林間伐準備



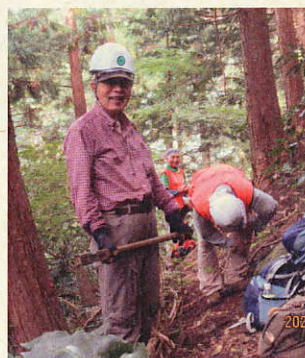
都有林間伐作業



都有林間伐作業



上柚木公園（鏝水中2年生 左から3名）



C 班

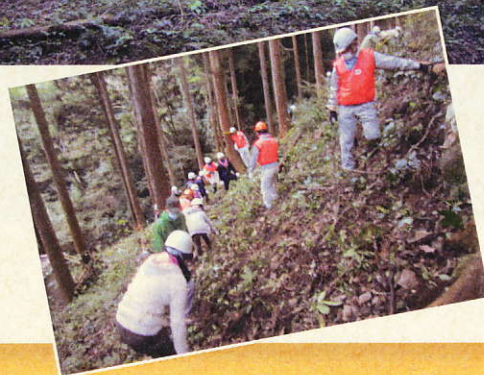


C 班

10月活動日記

京王親子森林体験スクール

●京王親子森林体験スクールが親子23名（親13名、子供10名）の参加で実施され、林道での自然観察や動物カメラ映像で豊かな北高尾を実感していただき、また来月の植樹の準備にも取り組んだ。



刈払機講習会 レポート

研修担当 / 大塚哲生

刈払機は道に生えてる草はもちろん、道の側面から伸びている木の細い枝も簡単に刈ることが出来て、非常に効率よく草刈りが出来ます。

当会では安全な機械作業の普及を目指して、チェーンソー講習 / 実機研修の他に、夏草の刈り時に当たる7月頃に刈払機の講習会及び別日に実機研修も行っています。

今年の講習会には、9名の方にご参加頂きました。ご興味のある方はぜひ来年ご参加下さい。



**悶々とした気持ちを
払拭してくれた
刈払機の講習会**

小林道太

入会した後もコロナの影響で中々、定例作業も参加できずに悶々とした気持ちを払拭してくれたのが刈払機の講習会。

30年近く前の「植木屋さん」でのバイトを思い出す。親方からいきなり、刈払機を渡され説明もなく、真夏の雑草と格闘！安全確保の方法や正しい使い方など、どこへやら。

あの夏の日以来、刈払機のことを忘れていました。そこに、今回の講習会「刈払機の構造」「安全の知識」座学を受けた上で、刈払機を使う機会をいただきありがとうございました。

実地作業は見ると聞くとは大違い、カラダに無駄な力が入り、思うように操作できないもどかしさ、でも、楽しい。

そんな私に、丁寧に指導いただいた講師のみな様ありがとうございました。

**講習は安価で
分かり易く**

絶対に損は無い！

石橋英寿

7月17日「座学」高尾の森づくりの会主催の刈払機作業の講習会に参加して学んだ事・感じた事……。

東京オリンピックの開会式の翌日7月24日実技の研修に入り初めて刈払機に触れて、重くもなく軽くもなく簡単に扱い易い機械だと感じた。

作業・操作の取扱い方を学び実習に入る。刈払い機の“刃”は何処の部分でも草類を刈り取る事ができると勘違いしていた?? “刃”の前方左側3分の1の部分で刈る。

また思いがけない怪我、事故の防止の為に「高尾の森づくりの会」の講習は安価で分かり易く絶対に損は無い！高尾の会のメンバー全てに必修にすべきだ！



**正直
簡単なのだろうかと
考えていました**

上尾奈津子

畑や公園で作業をする人をよく見かけていたので、正直簡単なのだろうかと考えていましたが、講習を聞けば、飛散物やキックバックでの事故があるチェーンソー並みに危険な作業なのだとわかりました。

その後の片手ハンドル式刈払機の実習では、大鎌を振るようにとイメージはできるものの、下にある石に当ててはいけなさと及び腰になってしまい、中途半端な高さしか刈れず…。今後は、慣れるためにも場数をふんでいきたいと思います！

自由

投稿

紅葉登山顛末記 (2021年10月5日～8日)



十河三郎

毎年紅葉登山を高尾の山仲間と行っているが、高い山へ登るのがきつくなったのでケーブルカーなどを利用して一気に高度を稼ぐトレッキングに昨年に変更した。これは私が肺に疾患が見つかったための配慮で扇沢から黒部アルペンルートを使って室堂まで一気に上がり、室堂から歩

き雄山下の一ノ越小屋まで登る計画です。最後は急坂でしたが何とか300mの高低差を登り切りました。紅葉は黒部平から上の室堂まで紅葉真っ盛りで今年も晴天の中、紅葉最高でした。ここまではよかったのですが、翌日は夜半から雨でしたが朝出発を少し遅らせ、雨がやんでガスがかかっていたいでしたが下山開始です。下るにしたがってガスが少し取れてきました。しかし、一ノ越小屋から黒部湖までの下山ルートは1300mの高低差がありきつい登山道です。ガスが取れる合間には絶景が望めるのですが高山では酸素濃度が薄く呼吸も苦しくなって長く歩けません。私は休

み休みの歩きで優しい仲間には追いつけません。

途中で黒部湖までの下山は無理と判断し黒部平からケーブルカーを使って下山するルートに変更するので先に降りてくださいと仲間に伝えたのはよかったのですが、黒部平の駅舎が見えてからの下山は思ったより長くて黒部平最終ケーブルカー17:00発に乗れるかどうかわからなくなってしまいました。岩がゴロゴロした急坂の登山道なので転んでけがしないように慎重に降りていたのですがさらに下山速度は落ち、ヘッドランプを付ける事態に。もう最終ケーブルカーには間に合いません。優しい仲間が黒部平駅に連絡してくれてなんとか臨時便を出してもらえ事なきを得ました。黒部平への分岐では真っ暗で道が分からず駅の方に迎えに来てもらいました。遭難寸前で仲間に心配かけてしまい申し訳なく思っています。また、黒部平駅の職員の方たちの優しい対応に感謝です。年齢を自覚してもう無理な登山計画は止めます。

*写真は室堂から一ノ越登山道にて
2021年10月5日

久々の活動再開。 しかしお山の諸注意忘れずに！

この一年、コロナ禍に振り回されっぱなしでしたが、親子森林スクールで2009年から初参加した愛娘も、今年度で大学卒業。なんとか就活も乗り切ったようです。今回もお山に誘ってはみたものの、「パパやっといて。」とのこと。ということで父親一人参加ですが、10月に緊急事態宣言が解除されて、やっと久しぶりにお山に戻ってくることができました。とにかくずっと自宅に引きこもっていたので、体力低下が著しい。やっとなんと2009年の植林地まで登ってきましたが、12年経ってムスメが植えたオニグルミは一層大きく育っていました。虫にでも喰われとらんかと思いましたが、12年前にみんなで植えたので全体的にはちゃんと育っているようで一安心でした。

さらに登って、昼休憩。ここで座ってメシだと屈んだら、ズボンの内股に見慣れぬ虫が這い上っていて!! パニック!!? (写真参考) マダニ! 1cm近くある! ダニというと、キュウリの葉の裏のコナダニやベランダの赤いダニ等のように1mm以下のイメージでしたが。マダニはこんなにデカいのかとびっくり。ダニが媒介する【重症熱性血小板減少症 SFTS】は致死率3割との報告も。久しぶりのお山で浮かれていましたが、いっぺんに警戒心MAXになりました。父ちゃんが悪い虫付けて、どないしまんねん。皆様、久々のお山再開ですが、モロモロ諸注意忘れずに気を付けましょう。



北島洋一

入会した当時は、東京神奈川森林管理署が所管する高尾小下沢国有林 178ha という広大な活動フィールドだという漠然とした興味を持っていた程度でした。活動を始めると、私が主に参加している毎月第2土曜の定例作業日の参加者は、毎回平均 70 人、年間の合計 2,000 人を超えることに驚きました。

山仕事雑感

相澤
篤

山仕事に素人の私は作業に必要な用具はなく、いつも「道具班」の皆さんが準備してくださる機材・用具を借りて作業エリアへと向かいます。入会当初は、「二丁差」が何なのか知りませんでした。作業当日、腰に巻いて出掛ける鉋と小鋸の組み合わせです。聞くとところによると、「三丁差」というものもあるということで、「剪定鋏」が加わります。ベテランの持ち物をよく見ると、お気に入りブランドがあるようでした。「My 剪定鋏」です。

ところで、当会では、機械作業班が精力的に活動しています。チェーンソーや刈払機などを使いますが、安全確保と知識・技能の講習会を受講して使用資格を得たメンバーで構成

しています。機械も駆使するとなると、山仕事から一歩離れ、間伐材を活用し、作業小屋で「木工品作り」に励んでいる「木工班」があります。結構危険も伴うと思いますが、刃物を器用に用いて、目を見張る作品を制作しています。また、近年は、風水害で林道などが崩壊し、その修復作業のためにスコップやクワなどの道具も頻繁に使われています。

以上からも推察されると思いますが、本文に書ききれない程の器具・機材・機器、その他多くの用具が山仕事を行うために準備されています。多くが刃物の類を用いる作業でもあり、「山仕事の第一歩は道具の手入れから」ということで、その管理にお互いが気を配っているのは当然のことです。前段で、ブランドに言及しましたが、作業効率や安全作業向上のためにも「個人装備」が推奨され、皆さんが用具に愛着を持っていることも十分に理解できることです。

現在の私は、多くの皆さんが愛着を持って活動している作業エリアに住む動物たちの調査も手伝いながら、高尾の森づくりに夢を膨らませています。

新型コロナウイルス感染症に想う

現在、世界中に蔓延し、世間を恐怖と不安に曝している新型肺炎（新型コロナウイルス：COVID-19）の病原体は新型コロナウイルスで、このウイルスは 2017 年にやはり世界を震撼させたサーズ（SARS: 重症急性呼吸器症候群）の病原体と同属です。

図では“コロナ”という語の二面性を比べました。本来“コロナ”とは「太陽の周りに現れる銀白色の冠光」を意味し、これが新型コロナウイルスの電顕写真と似ているので“コロナウイルス”と命名されたのです。

さて、このウイルス、正体が次々と暴かれるにつれて人間社会の弱点を、あまりにも知り尽くした利巧すぎる、いかにも人工的？に生産された生き物なのではと感ぜざるを得ません。それは、このウイルスの伝搬例でも明らかで、

- 1) クラスターと呼ばれる集団発生の手口を使い急速に拡散；
- 2) 軽症、あるいは症状が無い感染者からでも、他人に伝染する；
- 3) 感染者に防御抗体をつくらせない利口者（回復者が再度発症）；

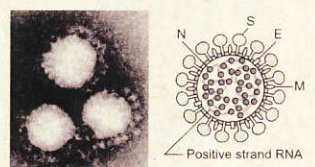
4) 重篤患者は持病持ちの高齢者に多く、時には急激に悪化し致死する一方、若者感染者の多くは全く症状を現さず、長期にわたって周囲にウイルスをまき散らす；そして

5) 遺伝子構造を簡単に変えて、新たな変種株（デルタ株など）を次々に生み出す；など。（以上は同期生の“暇”メールからの受け売りに私見を加味したものです）。

政府は 2021 年 9 月 30 日に東京をはじめ全国に出されていた「緊急事態宣言」を解除し、10 月 1 日以降は毎日の新感染者数は減少傾向にあります。しかし、地球上のどこかにこのウイルスが存在する限り、第 6 波、第 7 波の襲来が予測されます。

余談ながら、東京都小池知事が昨今のテレビで何度も繰り返している名言（迷言？）：「with corona: コロナとの共生」と「New Normal: 新たな日常」、さらには昨年の流行語大賞となった「三密」防止をしっかりと実践していきましょう。一方ではワクチン接種がさらに広がり、同時に有効な治療薬の服用によって、「高尾の森づくりの会」の活動が通常に維持・継続していけるよう、強く祈念しています。

佐々木正雄



山に戻りたいけど

清水
巖

ご無沙汰しています。

高尾から離れてずいぶんと月日が経ちました。しかし、高尾での活動のことは一日たりとも忘れたことはありません。

皆さんの仲間
に入れて戴き
山に遊んでも

らった日々は、私の人生の一角を燦然と輝かしています。直接山に対峙し、そこから得られるものを享受することが、ここでの「ボランティア活動」と思っていた私の狭隘な考え方は入会後すぐに打ち壊されました。わたしはそれまでの40年間を世間の人々が時にうらやみ時に激しく糾弾する「公務員人生」を送ってきました。この間、私が接触して来た人の大半は私と同じような経歴の持ち主です。もちろん厳密に言えばその思想や生活態度は千差万別です。しかしトータルしてみるとその特有の雰囲気を持っています。高尾の仲間に入れてもらったとき、私と同様の職業の人が少ないのに驚きました。社会の平均を表しているとは思えませんがその職業はバラエティに富んでおり、山から下りてみんなで一杯やる時の話題も変化に富んでいました。

毎週乃至毎月の山での活動はこのように魅力的であり、いつまでも続けばいいと心底願っていました。しかしそうはなりません。病がじわじわ私の体を蝕みだしたのです。急峻な山道が上りにくくなったり、傾斜地に安定して立っていることができなくなりました。これも年の所為かなと思っていましたが、ある日、脚がすくみ動けなくなりました。今から6,7年前のことです。こうした異変は連続性を欠くため、病気という自覚はなかなか持てませんでした。脳神経の専門で検査の結果難病のパーキンソン病であることが判明しました。しかしこの病気の進行は遅く、山での活動の場がベース中心になったことを除けば、日常生活の変化は大きくありませんでした。定められた薬を処方通り服薬するだけでした。しかし平穏な日々にも終止符が打たれました。ある日山から下りる途中、何の変哲もない舗装された坂道で転倒したのです。これがきっかけとなり山道の上り下りが困難さを増し、ボランティア活動は徐々に終息せざるを得なくなりました。

いつかある日 お会いできれば

貴重な親子森林体験スクールの活動

この10月24日には「親子森林体験スクール」が行われた。小下沢の梅林に集合し、野草を観察しながらベース小屋まで進む。小屋の前では動画を見ながら自然に関する話を聞き、昼食後には4ノ沢小屋の周りの植樹地の下拵えを行った。今回は第20期を迎え、長く続いている活動である。私は初代会長の河西瑛一郎さんに声を掛けられて森づくりの会に入った。彼とは高校時代の同級生であり、現職時は公立中学校教員だったので子供の指導にはちょうど良いと考えたのであろう。私自身は野生植物の観察に長い間関わってきていたので、親子森林体験スクールでは主に植物観察を担当し、植物観察シートを作成してきた。小下沢林道は植物の種類も豊富で資料作りは楽しみでもあった。

この親子森林体験スクールは他ではあまり見られない特色ある活動であ

る。まだ生活体験も少ない小学生に対して、傾斜が30度を超すような急な斜面で崩れやすい足場の悪い所での作業を行う。子供は鋸がまを使うのは初めてであろう。戸惑いながらもしかし一生懸命作業に取り組む。足元をふらつかせながら真剣な顔をして下草を刈り取っていく表情がいい。親は我が子を心配しながら声を掛ける。子は、うるさいなあ、といった表情を見せる時もあり、親子の情が感じられてほほえましい。このように危険が心配されるような、親子の情が感じられるような活動は、学校教育では見られない。元教員の私にとって新鮮な活動である。

子供たちは冒険が好きである。冒険をしながら「生きる力」を身につけていく。そして自然を肌で感じながら理解していく。この親子森林体験スクールは他に見ない貴重で大切な活動だと感じている。

源
原
重
行



幹事会報告

◆ 9 月幹事会 (Web 開催)

- 議案 1. 9 月定例作業の中止について
- 議案 2. 「20 周年を祝う会」の延期について
- 議案 3. 来春以降の植樹の実施方法について

報告事項

- 1. 京王親子森林体験スクール
- 2. 599 ミュージアム展示会、環境フェスティバル
- 3. 三宅島プロジェクト、滋慶学園森林体験はコロナのため中止



◆ 石垣の素敵な戸倉村へ ◆ 昔の知恵 横井戸

あきるの市戸倉は武蔵五日市駅からバスで 10 分弱。五日市町の隣村である。檜原行きまたは養沢行き等のバスで沢戸橋または戸倉下車。

上の写真は、旧戸倉小学校の東側の石垣である。2 段に設置された頑丈なつくりである。「野積み」と言われる積み方であるが残念ながら現在は野積みができる職人はなくなったとの事。

右側の写真、これは何だかわかりますか？ 手前は頑丈な石垣、扉は木材、奥 4 m ほどの管？はコンクリートできている。私は炭焼き窯、ある人は防空壕、また野菜保管用では？ワイン貯蔵庫？と様々な意見が。地元の人に聞くと「横井戸」とのこと。昔水道がない頃湧水を集め各家庭に送水されていたとの事である。昔は広葉樹で枯れることはなかったが、人工林になった現在はたまに枯れるらしい。



魅力あふれる旧戸倉村へ行きませんか？

- ◆ 12月19日(日) 9時45分 武蔵五日市駅集合
(拝島発 9時23分)
事前連絡不要、小雨決行、弁当、水、雨具

新会員紹介

小林道太です



「面接はこれで終了。」

きっかけは、登山のトレーニングのために、定期的に歩いている「北高尾山稜」でした。

早春の2月杉ノ丸へ向かう途中、ヘルメットにオレンジ色のビブス。肩にはチェーンソーを担ぎ、楽しそうに下から登って来る一団。興味本位で、声をかけるとその中の数名の方に「山歩きなんかしないで、私達の手伝いをしてくださいよ。」との事、毎回のトレーニングで、「高尾の森づくりの会」の立て札を見かけてはどんな団体なのかと？気に留めていた人たちとの出会いでした。

私の興味以上に、その数名の方たちは会の活動内容など、細かく説明してくださいました。「面接はこれで終了。」「次回の定例会でお待ちしております。」と、言い残しその日の作業現場へ向かわれました。

その後、4月の晴れた土曜日。皆さんの前で挨拶をしたのが、私「小林 道太(こばやしみちた)」です。初日はメンバーの人数に圧倒され、戸惑ったことを覚えています。その後、コロナで定例会の延期が続きましたが7月に「刈払機」の講習に参加させていただき、山仕事の初歩を感じはじめています。発見ばかりの定例会が待ち遠しく、毎日の生活を送っています。山好きの新参者です。どうぞよろしくお願いします。

福井雄登です



自分もこの取り組みの 力になりたい

皆様初めまして。八王子市在住、2001年生まれの福井雄登と申します。この度縁あって2021年7月14日に同会B班所属となりました。

自分は高校生の頃より地域のボランティア活動というものに興味があり、大学進学を機に上京した際当会のパンフレットを目にしたことがきっかけで入会を決意しました。体験で初めて定例作業に参加させていただいた際、景信山山麓の新緑の美しさと小下沢の流れの透明感が強く印象に残りました。そして同時にこのような情景もボランティアによる整備の賜物だと考えると、この会のたゆまぬ努力の力と意義がひしひしと感じられました。ひいては何卒自分もこの取り組みのお力になりたく、ほぼ全くの未経験の若輩者ながら経験豊かな諸先輩方のご教授ご指導の程が仰げればと思っております。一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。

(体験の方でお裾分けいただいたお菓子、とても美味しかったです。本当にありがとうございます。(笑))

活動記録

8/14	定例作業（新型コロナのため中止）
8/22	都有林プロジェクト（新型コロナのため中止）
8/23	上柚木公園作業（8名）
8/28	チェーンソー特別教育・座学（新型コロナのため中止）
8/29	チェーンソー特別教育・実践（新型コロナのため中止）
9/11	定例作業（新型コロナのため中止）
9/15	上柚木公園作業（7名）
9/18	滋慶学園森林体験教室（新型コロナのため中止）
9/25	チェーンソー特別教育・実践（新型コロナのため中止）
9/26	都有林プロジェクト（6名）
10/9	定例作業（60名）
10/15	植樹祭臨時作業（5名）
10/23	チェーンソー特別教育補講（0名） チェーンソー実践講習（7名）
10/24	京王親子森林体験スクール （親13名、子供10名、会員26名）
10/27	上柚木公園作業（8名）
10/29	一丁平作業（8名）
10/31	都有林プロジェクト（15名）

活動実績と予定

11/7	京王親子森林体験スクール （親8名、子供8名、会員30名）
11/13	定例作業（会員59名、法人3名）
11/13~14	八王子環境フェスティバル
11/17	上柚木公園作業
11/20	チェーンソー作業実践講習
11/20	八王子環境フェスティバル
11/22~28	599ミュージアム展示会
11/27	第三回機械実践講習会
11/28	都有林プロジェクト
12/11	定例作業
12/26	都有林プロジェクト
1/8	定例作業
1/22	チェーンソー作業実践講習
1/23	都有林プロジェクト

「20周年を祝う会」開催

創立
20周年

2022年2月20日（日）13時～15時

会場：八王子京王プラザホテル

* 同封の返信ハガキに必要事項を記入して投函してください。多くの方の参加お待ちしております。

* なお退会された会員で参加を希望する方がいましたら推薦してください。

退会会員が参加される場合は事務局長（仁藤）まで。

訃報連絡

伊藤征さん（77歳）が10月25日に
亡くなりになりました。謹んでご冥福をお
祈りいたします。

20周年記念誌同送

ご協力ありがとうございました。

会員動向

入会：ようこそ

野中 義昭さん

退会：お疲れ様でした

伊藤 征さん、竹内 普さん

編集後記



● 来年度から植樹を再開します。今まで植えたことがないという会員の皆さん楽しみにしてください。今後針広混交林を目指しコツコツと取り組んでいく予定です。

● 次号は通常なら2月発行ですが、20周年を祝う会が2月20日に行われますので、3月に特集を組んで発行する予定です。

● 温かいご支援ありがとうございました。次号より大島徹会員にバトンタッチします。引き続きの応援をよろしくお願いします（松川）

